

令和5年度調布市中学生被爆地平和派遣事業
ちょうふピースメッセンジャー2023
報告書

調布市 CHOFU TOKYO



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言

互いに違う価値観を認め合えることが
平和への一歩だ
—ピースメッセンジャー感想文より—



警告
warning
館内に入ると監視カメラが作動します。
絶対に立ち入りしないでください。
Alarm System in Place
Do Not Enter
広島市教育委員会
The City of Hiroshima

はじめに

調布市は、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念の下、毎年様々な平和祈念事業を実施しています。

令和5年度は、12人の中学生を市民の代表“ピースメッセンジャー”として被爆地である広島へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元することを目指した「調布市中学生被爆地平和派遣事業」を実施しました。ピースメッセンジャーは事前学習会、広島での戦争関連施設の見学や平和活動団体との交流などを通じて戦争・平和に関する学びを深めました。

この報告書をご覧いただき、ピースメッセンジャーが学んだことが一人でも多くの方に伝わるとともに、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとしていただければ幸いです。

令和6年3月

調布市

目次

はじめに

ピースメッセンジャーの役割	1
ちょうふピースメッセンジャー2023紹介	2

第1部 ピースメッセンジャーの感想文	3
--------------------------	---

第2部 ピースメッセンジャー活動報告	17
--------------------------	----

ちょうふピースメッセンジャー2023活動スケジュール	18
----------------------------------	----

Part1 【学び】

任命式	20
事前学習会①	21
事前学習会②(フィールドワーク)	22
広島平和派遣	23
事後学習会	29

Part2 【発信】

FC 東京第3回青赤ストリート	32
活動報告(国際理解講座 2023～世界の“いま”と平和を考える～)	33
活動報告の内容	34
活動報告展示	41
平和祈念事業	44
黙とうの呼びかけ	
国際理解講座 2023～世界の“いま”と平和を考える～	

第3部 ちょうふピースメッセンジャージュニアの取組	46
---------------------------------	----

ちょうふピースメッセンジャージュニア2023紹介	47
--------------------------------	----

ちょうふピースメッセンジャージュニアの活動内容	48
-------------------------------	----

ピースメッセンジャージュニアの感想文	50
--------------------------	----

第4部 自主活動	60
----------------	----

ピースメッセンジャー2023 池田晃樹・川上慶一郎・福永絢	61
-------------------------------------	----

ピースメッセンジャー2023 安藤笑太郎	62
----------------------------	----

ピースメッセンジャージュニア2023 里見駿成	63
-------------------------------	----

第5部	資料	64
	ちょうふピース部	65
	調布市平和展	67
	折り鶴プロジェクト	68
	平和首長会議	69
	日本非核宣言自治体協議会	70
	平和都市宣言(調布市非核平和都市宣言/調布市国際交流平和都市宣言)	71
	調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト	72
	その他平和祈念事業の紹介	73
	姉妹都市長野県木島平村平和学習～中学生広島派遣～	74
	おわりに	78

ピースメッセンジャーの役割

ピースメッセンジャーには、以下の役割があります。

1 市民の代表として調布市長から任命を受け、戦争の悲惨さや平和の尊さについて意欲的に学ぶ

ピースメッセンジャーは、7月2日(日)の任命式から10月22日(日)の事後学習会まで、多くのことを学びました。

2 活動を通して学んだこと、感じたことや平和への想い発信する

平和への想いをまとめたメッセージボードを作成し、イベントや市内公共施設での「活動報告展示」を通して多くの市民の方にご覧いただきました。

また、各種平和祈念事業に参加し、平和への想いを発信しました。

— イベントへの参加 —

FC東京第3回青赤ストリートへの参加

— 報告会 —

国際理解講座2023～世界の“いま”と平和を考える～での活動報告

— 活動報告展示 —

姉妹都市長野県木島平村 木島平中学校「けやき祭」

FC東京第3回青赤ストリート

市民活動支援センター

調布市青少年ステーションCAPS

北部公民館

文化会館たづくり II階みんなの広場

ちょうふピースメッセンジャー2023 紹介

市内在住又は在学の中学生12人が“ちょうふピースメッセンジャー2023”として活動しました。



荒尾 実紗	(あらお みすず)	東京都市大学等々力中学校(1年)
安藤 笑太郎	(あんどう しょうたろう)	調布市立第八中学校(2年)
池田 晃樹	(いけだ こうき)	調布市立第六中学校(2年)
川上 慶一郎	(かわかみ きょういちろう)	調布市立第六中学校(2年)
齋藤 悠衣	(さいとう ゆい)	調布市立第五中学校(1年)
鈴木 恵利加	(すずき えりか)	晃華学園中学校(3年)
鈴木 湧真	(すずき ゆうま)	世田谷学園中学校(1年)
竹腰 滢	(たけこし れい)	調布市立神代中学校(1年)
武田 一芯	(たけだ いっしん)	調布市立第四中学校(1年)
立入 美璃	(たちいり みり)	調布市立調布中学校(2年)
福永 絢	(ふくなが あや)	調布市立第六中学校(1年)
松井 亜弥	(まつい つぐみ)	調布市立第八中学校(2年)

第 1 部

ピースメッセンジャーの 感想文

ピースメッセンジャー一人ひとりの「感想文」と活動前・活動後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャーが作成した原文のまま掲載しています。



ちょうふピースメッセンジャー

広島に行くのは
楽しみ!!

でも、戦争の恐ろしさは
あまり分からず、
授業で言われてもよく
分かっていない。人の体験は
感じる事が出来ず、
ただ、平和について学びたいと
思う。

**平和を
まだ知らない自分**

伝えていき
たいこと

広島で平和や命の尊さについて学び、市内外へ伝えていきたい!!

PEACE

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日~8月2日
広島に行きました

派遣を通して

広島に行くと僕は
戦争は「被爆兵器」が
戦争は終わらないと思
「被爆兵器」の恐ろし
「真実」から世界に伝



広島で学んだことは
とても貴重な経験だ
日本が被害者扱いされて
いるけど実際は人種差
別な扱い、職業で優先
順位を決めたりする
たくさん酷いことを
してきた。広島で学んだ
ことを地域の人に伝える

「平和を伝えていくために
平和を地域に伝えていく
ために、平和活動に関
するボランティアに積極
的に参加していきたい。
そして、広島に行って学
んだことを、これからの
人生に生かしていきたい。

広島でたくさんの活動の中で一番印象に残っている
言葉は「戦争に勝者はいない」です。
この言葉を胸に刻み、これから僕が出来ることを
やっていきたい。

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

広島

広島派遣を通して学んだこと

ピースメッセンジャーとしての活動の中で一番印象に残った事は被爆体験者講話と VR 映像による原爆投下前後の広島の様子についてです。被爆体験講話では当時の状況を詳しく説明してくれたので説得力がありました。

そして、VR 映像による体験をした事で戦争の恐ろしさを思い知らされ、しばらくの間受け止めることが出来ませんでした。広島派遣後は戦争の新聞記事などが目に留まるようになりました。

派遣後に広島での経験をもとに朝日学生新聞社主催の「ニュース作文コンクール」に応募し、佳作として入賞しました。日頃書く作文と違い何度も戦争について考えました。今もロシア、ウクライナ、他の国々が争い、数えきれないほどの犠牲が出ています。このような事態を二度と起こさないために、この活動から学んだことを活かして調布市の代表として伝えていこうと思います。

安藤 笑太郎

調布市立第八中学校（2年）



ちようふピースメッセンジャー

世界では、また戦争や紛争が起っています。
 広島へ行って、戦争や原爆の悲惨さを知り、その学んだことを様々な人に伝えていきたいです。
 また、世界中で核兵器がなくながたい今の現状を変えたいという人を少しでも多く増やすために伝えていけるようにするために、広島で学んでいきたいです。



PEACE

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業



7月31日～8月2日
広島に行ってきました

広島に行っ

僕は広島に行って見たり聞いたりして分かったことがあります。
 それは戦争は無差別に人の命を奪っていくことです。
 また、被爆者の方からは、戦争の体験を2度としてほしくないという思いを聞きました。
 そして、資料を見ると戦争の悲惨さがよく分かりました。
 広島では平和や戦争の恐ろしさを伝えていっている人がたくさんいます。なので僕もそんな人たちのようになりたいです。



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

広島

身をもって知る

僕は、この、ピースメッセンジャーの活動を通して戦争に対しての考え方が変わりました。

僕はこの活動をするまでは、戦争や核兵器などのことにあまり興味がありませんでした。

しかし、広島に行き、被爆者の講話を聞いて、戦争や核兵器の恐ろしさを知り、原爆ドームや平和資料館に行って、当時の様子や人々の思いなどを知ったことによって戦争のニュースにも興味がわくようになりました。

また、カクワカ広島さんとの交流で、若い人もこのような「戦争を二度としてはいけない」ということを若い人に伝えていく活動を知り、被爆者以外にも活動している人がいることに驚きました。

VR ツアーでは、原子爆弾の投下直後の映像があり、とても悲惨なもので、子どもが泣いていて、人々が苦しんでいる様子などがわかり、とても心が痛かったです。

この、ピースメッセンジャーの活動を通して、僕は、戦争のことに興味を持つていくことができたと思います。これらの経験を生かして身近な人から戦争について、平和について伝えていきたいです。

池田 晃樹

調布市立第六中学校(2年)

広島 ～世界にたった二つの被爆地～

1. 広島へ行くにあたって

作文を書いてメモして大賞
下の冊子の書き方を参考に
メモして書いてみる。by 母

下から上へ来た
家の中からは何もない
と念じていた。

水車の音が聞こえたら
空を飛んで来た。行かないで

2. ピースメッセンジャーの意気込み

初めて、川上 慶一郎と申します。広島へ来て感想を伺うのは大変
です。

下から上へ来た
家の中からは何もない
と念じていた。

水車の音が聞こえたら
空を飛んで来た。行かないで

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日～8月2日
広島に行ってきました

1. 広島派遣を通して学んだこと

戦争の残酷性
原爆の被害だけで14万人以上が亡くなり、
今でも被害者は増え続けています。

原爆兵器の無差別な破壊力
原爆ドームのドーム部分は金網状の網で
一瞬で受け落ちたそうです。
広島へも近い建物にはほとんどが爆風・火災で壊れた。
壊れてもなお、生きようとする人達のたくましさ
簡単な家を建てて、火災耐性による被害を受けず
生きようとした人がたくさんいました。

75年間、草木も生えないと言われても復興に立ち上がり
ました。

2. これらの活動を通して伝えたいこと

戦争に片手はないということ。
これは、広島日米親善会のお話も何人かお話を聞いた
言葉でも自らも川上慶一郎山中で黒い雨に会い、被爆者
になりたがる言動として、現地で活動して聞いています。
戦争に勝てない。戦争を繰り返す。当時の建物などのように
残すか、私たちの言葉です。

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調
布

広
島

ピースメッセンジャーとして活動して

ピースメッセンジャーという約半年間の活動を通して、私の戦争に対する考え方は変わった。学校の授業や教科書で、核兵器の脅威、被害などは教わっていたが、実際の被害を現地に行って知ると、それまで見聞きしたことよりもっと多くの被害がそこにはあり、改めて非人道的な兵器であるのだと実感した。

私が現地派遣で一番印象に残っているのは、3日目の呉市訪問である。原爆投下は免れたその都市のことを、私は実際に訪問するまで知らなかった。しかし、呉市には海軍工廠という艦船・飛行機・兵器等を製造する工場があり、呉市の工場ではその技術が非常に高かったこともあり標的となり、やはり戦時下で多くの被害が出たことを知った。

原子爆弾が投下されたヒロシマ・ナガサキにはばかり目が向けられがちだが、本当は、日本各地で甚大な被害が出たのだということを改めて実感できた。

私はこの経験を通して、さらに多くの人にこの考えを共有できたら良いと思う。実際に戦争を体験した方々は、時間が経つにつれ減少していく。現地で教えて頂いた負の記憶を、資料などで後の世代に残すことができるよう、これからも活動を行って行きたい。

川上慶一郎

調布市立第六中学校(2年)



ちようふピースメッセンジャー

原爆投下によって、たくさんの人が苦しみ、たくさんの被害がでた。そしてまた同じようなことが起きない『**平和な世界**』とはどんなものなのだろう。



広島へ行く前

広島へ行って原爆。そして『平和』についてしっかりと学び、市民に伝えられるようにがんばりたい。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業



7月31日、8月2日
広島に行ってきました

『核兵器と人類は』

共存できない』

今回広島へ行って私は、た・た・たの核兵器だけで、沢山の死傷者が出たり、ほとんどの建物などが一瞬にして破壊されてたり、とても恐ろしいものだと知りました。そして、これは危険なものはこの世にあってはいけないと思います。だから私は、原爆についてより多くの人に伝えていきたいと思います。

平和とは、

全員が全員の味方である世界
だと私は考えます。



広島へ行った後

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

広島

活動を通して

齋藤

悠衣

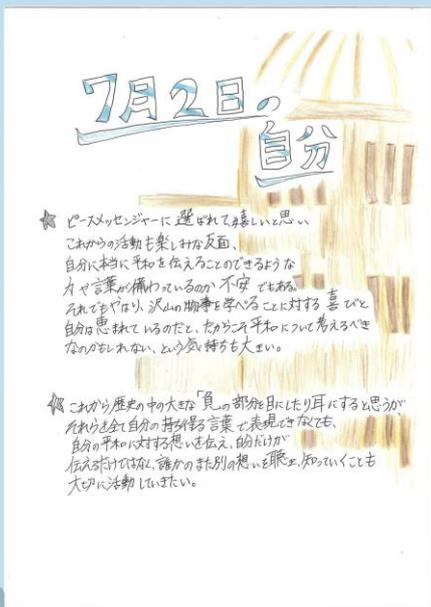
調布市立第五中学校（1年）

私はこの活動を通して沢山のことを学ぶことができました。

まずは平和についてです。私が特に印象に残っていたのはVRツアーでした。このVRツアーは被爆当時を知らない私たちにとってはとてもリアルで目をつぶりたくなるほどでした。私はこのように原爆について学べるのは今、日本が平和だからだと思いました。

そして原子爆弾についてです。私は原爆一つで約14万人の人の命がうばわれてしまうということに驚きました。そのような核兵器がこの世の中にあるはいけないと思いました。

「核と人類は共存できない。」私はその通りだと思いました。これから核兵器のない世界をつくるために核の恐ろしさ、平和について沢山のの人にインターネットなどのさまざまな方法で発信していきたい理解してもらいたいと思いました。

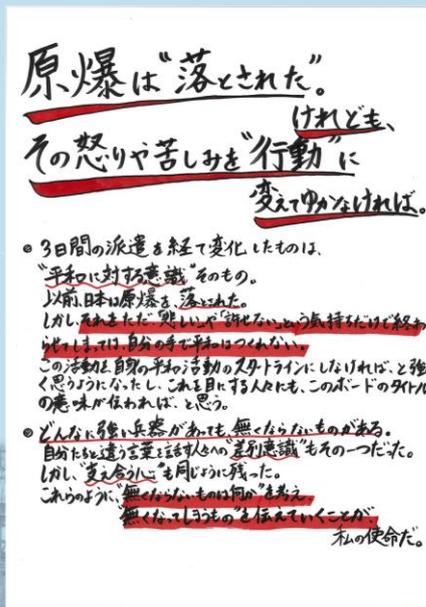


調
布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日～8月2日
広島に行ってきました



広
島

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に変化したと、これからの使命

追い求める平和

私にとって、ピースメッセンジャーとして平和活動を行えたこの半年間は、自分の人生にとってとても大きな意義があると強く感じています。

実際に広島を訪れ、様々な人と交流し、以前はまだ漠然としたイメージだった「平和」が少しずつ、自分の中ではっきりと思いつけるようになってきていると思います。

またそれと同時に、今までうまく言葉にできていなかった自分の思いや意見を、具体的に誰かに伝えたり、また違う人の言葉にも耳を傾けるということを大切にしていこうと、改めて思えました。

そして、平和について考えることは特別なことや偉いことではなく、当たり前であるということ、平和は求めなければ実現されないということ、この活動で何よりも感じました。同時に、平和が当たり前にあることで、段々とその大切さが人々の意識から薄らいでいってしまうということも感じました。

だからこそ、決して平和について考えることを止めず、今日、平和でない場所で生きるすべての人々に平和が訪れるよう願いたいと思います。

鈴木 恵利加

晃華学園中学校(3年)



ちゅうふピースメッセンジャー

葛城さん
 戦争や原爆のことは学校で習ったから少しは知っているかと思われたけど、被害にあってきただけ大森君、たのことは現地に作って話を聞いてみないと具体的なことはわからないからこの活動を通してもっと詳しく知りたいと思っしています。

伝えたいこと
 ピースメッセンジャーとして伝えたいことは、原爆のおそろしさを平和の大切さを伝え、今後このようなことが起らないようにしなければいけないこともなりました時にどれだけ大変なことがおきてしまうのか、そして原爆だけでなく戦争のおそろしいこと、実際に現地に聞いて感じたことなどです。

令和5年度
 調布市平和祈念事業



7月31日〜8月2日
 広島に行ってきました

最も心に残った事柄や言葉があります。
 それは被爆体験者の辻田さんの言葉、

「命が守られ家族や皆が安心して暮らせる世の中が平和」

だと言言葉で、「見単純そうだけれど」
 考えてみると、複雑な話だと思えば、時がそのように和んだとしても、それを何年も何十年も続けさせることは難しい。平和というものは、すぐにこおれてしまう。
 だからこそ、ほんの少しでもいいから平和について考えることは大事だと思った。

また、VRを体験し見たものはとても悲愴なものでした。周りが父の海のように、そして川に飛びこんでいる人も見えませんでした。しかし、被爆体験者のなかからそのVRを見ると、とても悲愴な状況で、見どころが濃く、おもしろいと感じました。そして、ガイドさんは言っていました。「被爆体験者が体験したことや、伝えていかなければならないけれど、被爆体験者のなかからは年をとっているため、いつか伝えることができなくなってしまう。だから被爆体験者があるうちに話を聞いて、後の世代に伝えることがすごく大事だ」と思った。

調布

広島

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

任命から発表まで

鈴木 湧真

世田谷学園中学校（1年）

7月2日の任命式、正直自分が選ばれるなんて思っていなかったから驚いたと同時に嬉しかったです。自分がピースメッセンジャーに選ばれたのだから一生懸命取り組もうと思いつきながらピースメッセンジャーとしての活動が始まりました。

広島に行って三日間戦争について考えたりお話を聞いたりして戦争について学びました。広島の三日間は今までで平和や戦争について一番考えて詳しくなれた三日間だと思った。

そして発表の日、正直すごく緊張していました。上手に発表できるか不安だったが自分が思っていたよりも上手にできたので嬉しかったし達成感があった。あんな大人数の前で発表することは滅多にないので貴重な経験をすることができた。

これからは選ばれた人だけだけれども、弁論大会に参加出来たら参加してそこで派遣について話すことができるかもしれないので似たような活動があったら積極的に参加していこうと思った。

また被爆体験者のお話を聞くことができたので被爆体験の話聞いたことのない人に伝えたいと思った。



ちょうふピースメッセンジャー

祖父が暗くなる8月

私には、一緒に暮らしている祖父がいます。祖父は、89歳という高齢ながら、とても元気で、でも、毎年、8月になると、決まって部屋にこもります。なぜなら、祖父は「被爆者」で、原爆で、99歳の兄弟を亡くしたからです。普段はとても明るい祖父が、8月にすると暗くなるのは、原爆が、とてもおそろしいものだからだと思っています。でも、私は、それをよく知りません。だから、広島に行って、当時起った、現実を知りたいです。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日、8月2日
広島に行ってきました

私たちが たくさん伝えて 忘れさせない。

広島に行って、印象に残したこと。
 ・袋町小学校を見た。人々の思い。
 ・袋町小学校を歩くの時に、自分の子供や、教師も探さないとあり、人々が思いを込めて、深く共感した。
 ・私たちが被爆者から直接話を聞ける最後の世代。
 ・私たちが、被爆者から直接戦争体験を聞ける最後の世代なので、話を聞かなくて後悔する。
 ・その先の「知る、伝える」ということをしていきたい。
平和を目標にするには
 私たちが平和-命が守られた家族や町が、安心して暮らせる世の中。
 平和は、居る方も居る環境も遠くの人々が保たれていること。
 でも、平和は、明日保たれているわけがわからない。
 そこで、私、
平和の大切さ、命の大切さ
 を伝えていきたい。

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

広島

私たちが伝えていく

私はこの活動を通して強く感じたことがあります。それは、原爆の悲惨さです。私はこれまで、原爆について理解していたつもりでしたが全くそんなことはありませんでした。

広島原爆では、約14万人の方が亡くなってしまいました。私はその事実に対して、人一人亡くなってしまっただけでとても悲しいことなのに、14万人の方が亡くなってしまっことは想像できませんでした。そんなに多くの方が亡くなってしまったら、周りの家族が亡くなり一人ぼっちになってしまった子も少なくないはず。そこに自分をあてはめてみたら、原爆への恐怖と、家族を失った悲しみで何も考えられなくなってしまうと思います。

今、原爆体験者が減っていて、お話を聞ける機会が少なくなってきています。そんな中、私たちピースメッセンジャーは直接お話を聞くことができました。

私は記憶から忘れられてしまうことが一番怖いことだと思っています。私は、多くの人に原爆について理解してもらえるように、聞いただけで留まらずに、私たちの活動で知ってもらい、自分から伝えていきたいと思っています。このピースメッセンジャーで学んだことを活かして、これからも平和活動に携わっていきたくと思っています。

竹腰 零

調布市立神代中学校（1年）

広島に行く

まだ何も知らない自分

- 原爆が落ちてきた時の様子
- 広島で当時なにが起きていたか

だからこそ広島に行き、学びたいこと

- 被爆者の言葉などを聞き、当時の様子を知る
- 原爆ドームなどに行きたがっていたり見たり聞いたりして、戦争の原爆の恐ろしさを五感を通して実感する

学んだ後にしたいこと

- 家族や友達など多くの人に戦争や原爆の本当の恐ろしさを伝えていく
- 平和について今よりも考え、争いを生み出した原因の行善かをし、どうすれば平和になるのかを常に意識する
- 広島に行き原爆の恐ろしさを体験し、同じ過ちを後世に伝えないように伝えていく

まとめ

私は広島に行き、物何一つ知らない自分ではなく、平和や戦争、原爆について少し理解を深め、学ばせてくれたことに感謝するようになる。

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日～8月2日
広島に行ってきました

広島に行って

学んだこと伝えていきたいこと

平和について

広島に行き、戦争当時の悲劇を学んだ。平和などなく、ただただ辛い様子を見た。そこで私は初めて本当の平和について分かった。笑うことができ、寄り添えることができることがあった。平和は尊いことだと分かった。今が平和な日常だと感じた。

原爆について

たった1発の原子爆弾が多くの人の命を奪い、生き残った人々の人生を変えてしまい、丈夫な建ても壊れてしまった。原爆ドームのようにロボロボとしてしまっている原爆の恐ろしさを学んだ。原爆の恐ろしさは主に3つある。
1.熱線 2.放射線 3.放射線
どれもすごい威力がある。これらは人間に有害だ。

これからの使命

私は広島で学んだことを多くの人に伝えてもらうためにこれから、このお話を発信していきたい。これからの時代を生きる私達が戦争や原爆の恐ろしさを理解し、平和を守り続けていけるように。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

広島

広島で学んだ戦争とこれから

武田一芯

調布市立第四中学校(1年)

任命式の日、初めての表彰に緊張と興奮が混じり合い、心臓の鼓動が早くなっていることがよく分かった。この時はまだ、戦争の本当の恐ろしさを知らず何もわからなかった。

事前学習などで戦争について少し理解を深め、広島派遣で向かった先では本当に多くのことを学び、戦争の恐ろしさなどを強く実感した。

広島派遣で私が特に印象に残った場所は「広島平和記念資料館」だ。資料館には数々の亡くなった人達の遺品や言葉、写真が置いてあり、どれも生きていた証というのが感じられ、凄く生々しく見ることも辛い程の戦争の「本当の恐ろしさ」というものを感じた。

そんな恐ろしい戦争を、とても多くの命を奪った戦争を繰り返さないためにもこれからの日本を作っていく私達若者に今回のピースメッセンジャーの活動で得た戦争の恐ろしさを学んでもらえるように、今後も様々な活動を行います。



戦争について
もっと知る

私は、授業・休み時間・放課後に友達と遊んだり話したりすることが大好きで、よくふざけて笑われてしまうこともある。この私でも小学生から歴史について興味があった。図書館の時間では、よく歴史の本を借りた。ある時、戦争についての本を借りた。びっくりした。悲しかった。読んだ時に様々な感情が込みあげた。今でも覚えている。— どうしてこんなことするんだろう。— それから私は色々な戦争の出来事について興味を持ち、学校にあった歴史の本は全部読んで読もう。でも、出来事としては知っているけど具体的な事には分からない。だから私は...

広島に行ってもっともっと知りたい!

調布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業



7月31日・8月2日
広島に行ってきました

広島に行つて!!

1日目
広島平和記念資料館を見学して、被爆者の方の講話を聴いて...
本当に非惨の出来事だと実感した。

2日目
SocialBookCafe ハブリ舎でカワカの皆さんと交流して...
自分から動くことの大切さを学んだ。

3日目
大和ミュージアムで特攻隊の方の音声を聞いて...
勇気のある声に感動した。

今の考え
この3日間を通してもう2度とこのようなことが起きないで、起きてほしくないと思った。そのために、ピースメッセンジャーがある。私はこれからも任務を未償していきたい。

広島

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

未来の平和を伝えていく為に

私はピースメッセンジャーの一員として選ばれ、原爆が投下された広島に行きこれまで活動してきました。

私たちピースメッセンジャーは、広島で被爆者の方や大学生の方と交流し、彼らの経験や思いを聞く機会を得て意見交流を行いました。また、広島平和記念資料館や原爆ドームを訪れ、戦争の被害の大きさや原爆の恐ろしさを実感しました。

その後事後学習では、広島で学んできたことや感じたことをまとめ、地域の方々に戦争の恐ろしさや悲惨さを伝えました。

それだけでなく平和を築くための希望となるメッセージを、よりよく伝えられるようにピースメッセンジャー全員で協力し合い努力してきました。

私は広島での経験を通じて、戦争の悲惨さを改めて理解しました。だからこそ戦争をなくし、平和で希望溢れる世界を創るためにこれからも日々努力し積極的に地域に貢献するような活動をしていきたいと思っています。

立入 美璃

調布市立調布中学校(2年)



ちようふピースメッセンジャー

戦争(原爆)について今知っていること

- 8/6に広島、9/1に長崎に投下。
- 何万人も被爆して亡くなった。
- 怪我をした。
- 被爆してとても長い期間、体に深刻な障害を負った人がいる。

今の自分の気持ち

- 広島に行ってとても体験できて嬉し。
- 被爆体験者の話を聞けるなんて貴重な体験だ。
- 色んな資料館を見れるなんてすごく興味深い。
- 勉強が楽しくなりました。

ピースメッセンジャーとして伝えたいこと

- 原爆が人々にどんな影響を与えたのか。
- 戦争が人々に与えた被害。
- 自分が広島に行ってどのようなことを体験したか。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日、8月2日
広島に行ってきました

広島に行って感じたこと、思ったこと

- 戦争は何十年も人の心身を傷つけるもの。
- 平和に暮らしていることは、有難いこと。
- 原爆、戦争は多くの人に死と悲しみをもたらした。

今の自分の気持ち

- 広島に行って資料館や被爆体験者の話を実際に聴くことができて貴重な体験ができた。
- ここで体験したことを様々な人に伝えたい。

ピースメッセンジャーとして伝えたいこと

- 広島で8/6に起こったこと、被爆した人たちの思い、悲しみ。
- 復興するまでの道のり。

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後感じた変化と、これからの使命

調布

広島

平和のバトンを繋ぐ

福永 絢

調布市立第六中学校(1年)

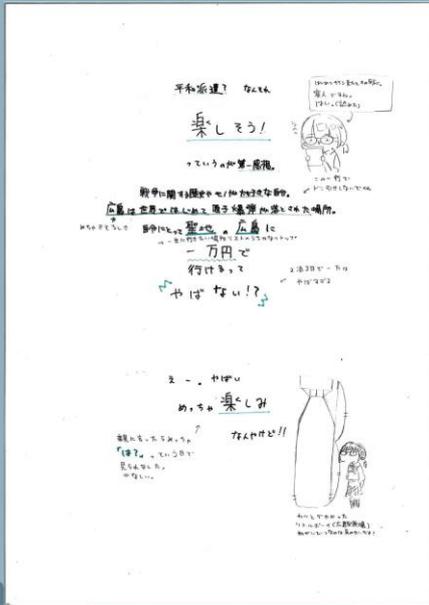
私がピースメッセンジャーの活動を通して、最も考えさせられた事は、原爆は身体的にも、精神的にも後世に渡り決して癒えない傷を人々に残すもので二度とこのような事を起こしてはいけないということです。

私が行った 2023 年の夏の広島は人々が笑顔で生活する平和な町でした。広島記念公園の VR ツアーで見た、とにかく火の海の中で死体の山だった残酷な風景はそこにはありませんでした。

かたや、被爆して今も身体的な後遺症や精神的に苦しんでいる迫田勲さんの講話を聴いて原爆の被害は今なお現在に繋がっているもので忘れてはならないと思いました。

今、平和に暮らすことができている国がたくさんある一方、今まさに戦争が起き何の罪もない人々の生活が脅かされている国もあります。

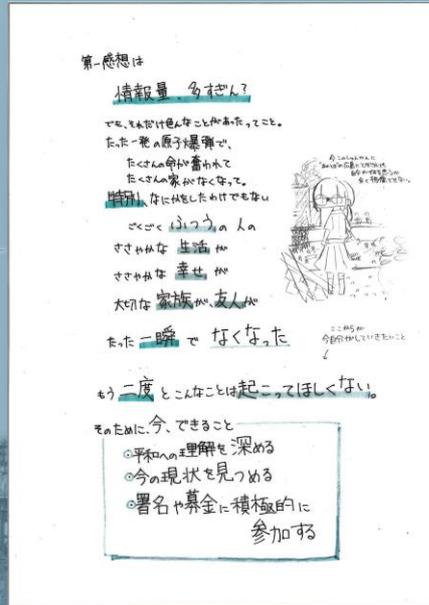
人によって「平和」の定義は違うけれど、互いに違う価値観を認め合えることが平和への一歩だということを私はこの活動を通して一番感じました。これからもピースメッセンジャーの活動を糧として、市内外に平和の重要性を広く発信していきたいです。



ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和5年度
調布市平和祈念事業

7月31日～8月2日
広島に行ってきました



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調
布

広
島

平和が教えてくれたこと

私がピースメッセンジャーを通して学んだことは主に二つあります。

一つ目は平和の大切さです。私は今回初めて広島へ行きました。平和記念資料館では原爆の恐ろしさと様々なモノへの影響を学びました。原爆は多くの人の命を、帰る家を、夢を奪いました。平和は戦争を経験した人によってつくられ、一つのパーツを外したらすぐ壊れてしまう。その一つ一つのパーツを大切にしていってこそ私たちの使命なのだと感じました。

二つ目は、自分から行動することの大切さです。ピースメッセンジャーは自分の意思で応募しました。結果として、先述したように平和の尊さ、大切さを学び、貴重な体験をすることができました。

今後、世界が平和になるか、そうでなくなるかはわかりませんが、今回得た知識をもとに、より良い方向に動かすことができるように努力をしていきたいと思っています。

松井
亜弥

調布市立第八中学校（2年）

第2部

活動報告

ちようふピースメッセンジャー2023の平和活動を2つのパートに分けて紹介します。

ピースメッセンジャーに任命されてから報告会までの活動について紹介します。

ちようふピースメッセンジャー 2023 活動スケジュール

令和5年 7月 2日(日)	任命式・事前学習会①
16日(日)	事前学習会②(フィールドワーク・ちようふピース部との交流)
31日(月)～ 8月 2日(水)	広島派遣
6日(日)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(広島原爆の日)
7日(月)	事後学習会①(オンライン)
9日(水)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(長崎原爆の日)
15日(火)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(終戦記念日)
22日(火)～ 27日(日)	調布市平和展でのメッセージボード展示
9月 3日(日)	事後学習会②
29日(金)～ 30日(土)	活動報告展示 @姉妹都市木島平村 木島平中学校
10月 1日(日)	事後学習会③
22日(日)	事後学習会④
28日(土)	FC東京第3回青赤ストリートでの活動
12月 9日(土)	活動報告(国際理解講座2023～世界の“いま”と平和を考える～内)
令和6年 1月 6日(土)～ 18日(木)	活動報告展示 @市民活動支援センター
30日(火) 2月 6日(火)	活動報告展示 @青少年ステーションCAPS
3月 1日(金)～ 15日(金)	活動報告展示 @北部公民館
7日(木)～ 14日(木)	活動報告展示 @文化会館たづくり11階みんなの広場
20日(水)	ちようふピース部との交流会

(令和6年3月20日現在)

Part1【学び】

市民の代表「ピースメッセンジャー」
として、様々なことを見て、聞いて
【学び】ました。

任命式

日時：令和5年7月2日（日）
午前9時50分～10時30分
場所：文化会館たづくり映像シアター

ピースメッセンジャージュニアと合同で実施しました。

長友市長からピースメッセンジャーへ、調布市の代表としての心構えや平和学習への期待などの話とともに任命書が交付されました。

また、FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏様と(株)渋谷不動産エージェント代表取締役の渋谷利宏様から激励のメッセージをいただきました。

※ピースメッセンジャージュニアについては46ページ～



※石川直宏様の役職名は2024シーズンから
コミュニティジェネレーターとなっています。

事前学習会①

日時：令和5年7月2日（日）

午前10時30分～正午

場所：文化会館たづくり1001学習室

NPO法人ちょうふ子どもネット協力のもと、「ピースメッセンジャーとしてどうなりたいか」を考えるワークショップを行いました。画用紙に絵を描き、自分を表現する練習をしました。

また、ピースメッセンジャーとしての意気込みや平和への想いを伝えるための「メッセージボード」の作成に取り組みました。一人ひとりの考えや気持ちを自由に表現しました。



事前学習会②(フィールドワーク)

日時：令和5年7月16日(日)

午前8時45分～正午

場所：高射砲陣地跡

三鷹市大沢4-8-8社会福祉法人楽山会椎の実子供の家内

社会福祉法人楽山会協力の下、椎の実子供の家内にある高射砲陣地跡を見学しました。

その後、文化会館たづくりにて、「ちょうふピース部」メンバーから武蔵野の森公園に残る掩体壕について解説してもらいました。

※ちょうふピース部については65ページ～



広島平和派遣 行程表

7月31日(月)調布駅に集合し、広島へ向け出発しました。
現地では、戦争関連施設の見学や平和活動団体との交流等
を通して、戦争・平和について学びました。



令和5年 **7月31日(月)**

広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク
広島平和記念公園
広島平和記念資料館
被爆体験者講話
おりづるタワー

1
日目



令和5年 **8月1日(火)**

折り鶴献納
広島原爆死没者追悼平和祈念館
VRツアー
カクワカ広島とのフィールドワーク・交流

2
日目



令和5年 **8月2日(水)**

大和ミュージアム
海上自衛隊呉資料館てつのくじら館
映画「この世界の片隅に」ロケ地めぐり

3
日目

広島平和派遣

1日目

令和5年7月31日(月)

広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク/広島平和祈念公園/
広島平和記念資料館/被爆体験者講話/おりづるタワー



羽田空港から広島へ



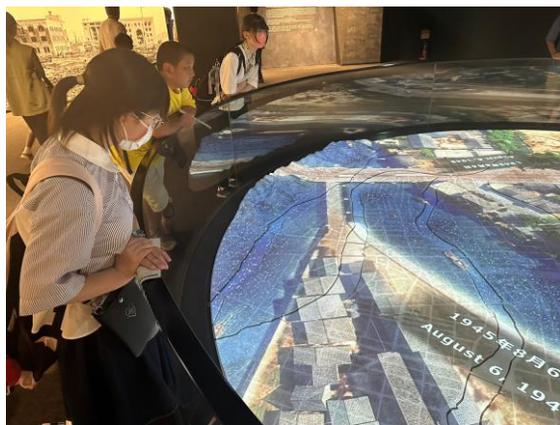
広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク



広島平和記念公園



広島平和記念資料館





講師
迫田 勲(さこだ いさお)様

7歳の時、爆心地から北西に約19km離れた山中で、屋外での作業後に放射性物質を含んだ「黒い雨」に打たれた。
 その後、2022年4月に被爆者として認定された。

被爆体験者講話



おりづるタワー



名物 お好み焼きの夕食

広島平和派遣

2日目

令和5年8月1日(火)

原爆の子の像への折り鶴献納/広島原爆死没者追悼平和祈 念館/VRツアー/カクワカ広島とのフィールドワーク・交流



原爆の子の像への折り鶴献納



広島原爆死没者追悼平和祈
念館



VRツアー

VRゴーグルを用いた広島平和記念公園
周辺のツアー。原爆投下直後から復興してい
く広島の様子の疑似体験できる。



カクワカ広島とのフィールドワーク・交流

「核政策を知りたい広島若者有権者の会」(カクワカ広島)の方々のガイドにより、広島平和記念公園周辺の被爆遺構を巡るフィールドワークを実施した後、戦争や平和についての意見交換などの交流をしました。



ミーティング

派遣2日目を終えて感じたことなどを整理し、それぞれが色紙に「My平和宣言」を書いて発表しました。

広島平和派遣

3日目

令和5年8月2日(水)

大和ミュージアム/海上自衛隊呉資料館 てつのくじら館/ 映画「この世界の片隅に」ロケ地巡り



大和ミュージアム



海上自衛隊呉資料館
てつのくじら館



映画「この世界の片隅に」ロケ地巡り

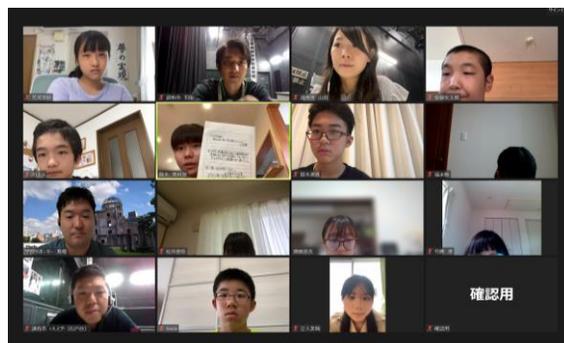
事後学習会

事後学習会①

日時：令和5年8月7日（月）午前10時～11時

場所：オンライン

ピースメッセンジャーとして平和への想いを発信していくため、オンラインで、広島派遣を振り返り、学んだことや感じたことをお互いに発表しました。



事後学習会②

日時：令和5年9月3日（日）午前9時30分～正午

場所：市役所会議室，文化会館たづくり1001会議室

これまで学んできたことを踏まえ、感じたことや平和への想いを記入し、メッセージボードを完成させました。

その後、ピースメッセンジャージュニアと交流し、お互いの派遣について報告しました。

FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏様と(株)渋谷不動産エージェント代表取締役の渋谷利宏様にもご出席いただきました。



事後学習会③

日時：令和5年10月1日（日）午前10時～正午
場所：文化会館たづくり301・302会議室

12月の報告会へ向け、多くの人へ平和への想いを伝えるための発表方法や使用する写真などを皆で話し合いました。



事後学習会④

日時：令和5年10月22日（日）午前9時～正午
場所：文化会館たづくり1001会議室，グリーンホール

12月の報告会へ向け、それぞれの報告内容を改めて確認しました。

また、報告会の会場であるグリーンホールの大ホールにてリハーサルをしました。



Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。

FC東京第3回青赤ストリートでの活動

日時：令和5年10月28日（土）午前11時～午後2時

場所：スタジアム通り

（飛田給駅北口～味の素スタジアム）

FC東京vsサンフレッチェ広島の試合にあわせて、飛田給駅北口から味の素スタジアムまでの「スタジアム通り」を歩行者専用道路として開催された「FC東京第3回青赤ストリート」において、ピースメッセンジャージュニアと共に活動しました。

ステージでの活動報告や、メッセージボードの展示場所での来場者との交流を行い、活動後は皆で試合を観戦しました。



活動報告

国際理解講座2023～世界の“いま”と平和を考える～

日時：令和5年12月9日（土）午後1時～4時

場所：グリーンホール 大ホール

ピースメッセンジャージュニアとともに、市民の皆さんへ向けて活動報告をしました。

ホワイエではメッセージボードを展示し、休憩時間や終演後には来場者との交流も実施しました。

FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏様と(株)渋谷不動産エージェン代表取締役の渋谷利宏様にもご出席いただき、石川直宏様からはピースメッセンジャーとピースメッセンジャージュニアの報告に対し、ご講評をいただきました。



活動報告の内容

※活動報告全体から抜粋

派遣前の活動

調布中学校2年の立入美璃です。

私から派遣前の活動についてお話しします。

初日の任命式は私たちみんなとても緊張して迎えました。ですが、自己紹介をし、ちょっとしたレクリエーション、3日間の説明、写真撮影を終えた後は何人かの友達と関わりを持つことができました。なので少し緊張がほぐれました。そして、メッセージボードに広島に行く前の自分の気持ちについて書き出しました。広島に行くことにより関心を持ちやる気に満ちあふれた一日になりました。

(立入美璃)

広島平和記念資料館の見学

第八中学校2年の松井亜弥です。

広島平和記念資料館の見学についてお話しします。

平和記念資料館では、被爆した物や当時に撮影された写真を見てまわりました。

当時、広島市内では何が起こっていたのか。

8月6日はどんな日だったのか。

一瞬であらゆるモノを、人の命を、ささやかな生活をうばった原子爆弾とは何か。

そして人々が思い描く「平和」とは何なのか。

これらについて学びました。

この先、ピースメッセンジャーとして活動していく上で基礎となる部分をつくることができました。

(松井亜弥)

被爆体験者講話

神代中学校1年の竹腰漣です。

私から、被爆体験者講話についてお話しします。

今から78年前、広島と長崎に原子爆弾が投下されました。熱線3000~4000℃ 爆風280m/秒のとてつもない温度と速さで、広島に蓋をしました。

あつくて、あつくて、水が飲みたくて、でもなくて、放射性物質が含まれた黒い雨を飲みました。近くに川があった人々は、水を求めて川に入り、熱線のあつさと共に蒸されてしまった人も、少なくありませんでした。

とてつもない速さの爆風では、山の木が大きくゆれ、麦わら帽子が飛び、爆風によって、焼きただれた紙や衣類が飛んできました。

原子爆弾は、人間と共存してはいけません。

私がこの活動を通して伝えたいことは、戦争の悲惨さと原子爆弾が、多くの人々の命をうばったということです。

このようなことを繰り返さないために、私は、「聞く」だけでなく、そこから言葉で「発信」していく、原爆について伝える行動をしていきたいと思っています。そして一人でも多くの人に原子爆弾についての理解を得たいと思っています。

(竹腰漣)

第八中学校2年の安藤笑太郎です。

僕からも被爆体験者講話についてお話しします。

僕は今年ピースメッセンジャーとして任命され、活動しました。

その中で被爆体験された方々のお話を聞き、今、僕たちが生活をしている日本とは程遠い環境下で生活していたのだと鳥肌を立たせながら聞きました。

今もウクライナやロシアなどの国で紛争が起こっています。原爆投下のあった第二次世界大戦では、なぜ戦争に参加したかハッキリ答えられないようですが、戦争が終わると皆、気付くはずです。「なんて無益な事をしたのか」今回、被爆体験者の方々から学んだ事は「戦争に勝者はいない」「日本は加害者でもある」という事です。

確かに戦勝国と敗戦国がありますが、国民は全員被害者です。日本も敗戦国になり被害者と呼ばれていますが戦時中は韓国人の治療を後回しにしたり日本人の中でも立場による差別がありました。僕はこのような事態を繰り返さない為にピースメッセンジャーとして学んだ事を発信して世界の平和に貢献したいと思います。

(安藤笑太郎)

VRツアー

第五中学校1年の齋藤悠衣です。

私からVRツアーについてお話しします。

VRツアーでは、広島平和記念公園内にあるレストハウス地下、原爆ドーム対岸、相生橋、原爆ドーム、元安川の5つのスポットの原爆投下当時とその復興を見ました。また、映像だけでなくイヤホンを使って原爆投下当時の人の声や周りの音などを聞きました。

私はこのVRツアーで、相生橋が1番印象に残りました。なぜかというと、多くの負傷者が地面で横たわっている場面や親とはぐれてしまった子どもが泣いている場面、人が呻き声を上げている場面だったりとてもリアルで自分がそこに居るようでとても怖いと思ったからです。

私はこの体験を通して、原爆ひとつでたくさんの命や街がなくなってしまうということ、そしてそのようなことをもう二度としてはいけないということを、調布市だけではなく世界中に伝えていきたいと思いました。

(齋藤悠衣)

カクワカ広島との交流

東京都市大学等々力中学校1年の荒尾実紗です。
私からカクワカ広島との交流についてお話しします。

「カクワカ広島」は、民主主義国家における市民の代表である国会議員に、核兵器のない世界の実現への道のりを尋ね、その情報を広く発信し、市民の関心を高める活動をしている方々です。そんなカクワカ広島の方々の案内で、広島市内にある原爆の被害がわかる石碑や建物を巡りました。

特に印象に残ったのが「袋町小学校」です。袋町小学校は爆心地から460mのところであり、木造建物は全て倒壊・全焼し、鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが残り、今も保存されています。

西校舎の壁一面には、伝言が数多く記されています。「〇〇さんを探している、いたら返事を書いてくれ」といった伝言が多く書かれていました。書いた人は、けがを負いながらも大切な人に会いたいと願い必死になって書いたのだと思うと、私自身の心も傷つきました。

袋町小学校には壊れた太鼓やドアの展示もあり、原爆の威力や大勢の人々が負ったひどい怪我を想像させられ、とても恐ろしかったです。

怪我による痛み、大切な人が生きているか不安な気持ち、一刻も早く大切な人に会いたいという願い。もし私が当時その場にいたら、どうすればいいか分からず不安で焦りその場で泣き喚き続けていたと思いました。

石碑や建物を巡り、核の危険性や過去の悲惨な出来事を後世にも伝えていくために、広島の人たちが工夫を凝らしている事が分かりました。戦争・原爆がどれだけ悲惨なことで、今後一切犯してはいけないことなのだという事、悲惨な出来事を風化させない大切さが伝わってきて、私は自分の今までの行動を振り返させられました。

市内巡りの後は平和についての意見交換を行いました。ここではみんなの感想や意見に耳を傾けて、自分とは違う視点からも考えることができました。また、耳を傾け静かに意見を聞いてもらえることで、私は、カクワカ広島の方もピースメッセンジャーのみんなも仲間なのだという事を実感することができました。

(荒尾実紗)

晃華学園中学校3年の鈴木恵利加です。

私からも「カクワカ広島」との交流についてお話しします。

まず、私たちは3つのグループに分かれて、平和記念公園周辺をまわったのですが、私の中でとても印象に残るものがありました。それが、韓国人原爆犠牲者慰霊碑というものです。

この慰霊碑は、被爆した韓国人や朝鮮人の方々のためにあるのですが、当時彼らは、外国人だからといった理由で差別を受けてしまい、十分な治療が受けられなかったということもあったそうです。

私はこのお話をカクワカの方から聴き、核兵器のような恐ろしいものがあったとしても、人間の深いところには、無くならないものがある、ということ強く感じました。原爆が落とされても、支え合ったり助け合ったりする心は残りました。

けれども、同時に、自分や周りとは違う人々への差別の心のようなものも、どこかに残っているのだなと思いました。

だからこそ、核兵器や戦争によって失ってしまうもの、家族や友達・家や学校、数えきれない「当たり前」にあるものを大切にして、それでも残る人間の深いところにある良い部分、そして悪い部分は何かを見極め、平和についてそして私たち自身について考えていきたいと思います。

(鈴木恵利加)

呉市訪問

第六中学校2年の川上慶一郎です。

私から呉市訪問についてお話しします。

三日目、私たちは広島市よりも南に位置する、呉市に行きました。

呉は戦時下、鎮守府が多く置かれました。鎮守府とは、海軍の基地のことで、日本には四つの鎮守府がありました。そのため、アメリカ軍の空襲の目標地にもなりやすく、多くの人々が亡くなりました。

また、当時、日本の持てる技術力の全てを駆使して、あの有名な戦艦「大和」が造られた地でもあります。ちなみに、大和は今も鹿児島県沖に沈んでいるそうです。

また、呉を舞台にした映画「この世界の片隅に」のロケ地巡りもこの日、行いました。作中に登場するすすさんの家にも訪れ、その景色を眺めました。その景色は平和になったからこそ、美しい景色だったのですが、約70年前は空襲によって焼けている建物が多かったのだらうと考えると、感慨深かったです。

(川上慶一郎)

活動報告展示

ピースメッセンジャーとピースメッセンジャージュニアの平和への想いが込められたメッセージボードを、イベントや市内公共施設等で展示しました。

令和5年9月29日(土)・30日(日)

姉妹都市長野県木島平村
木島平中学校「けやき祭」



令和5年10月28日(土)

FC東京第3回青赤ストリート



令和6年1月6日(土)~18日(木)

市民活動支援センター



令和6年1月30日(火)~2月6日(火)

青少年ステーションCAPS

※スライドショー放映



令和6年3月1日(金)～15日(金)

北部公民館

※スライドショー放映



令和6年3月7日(木)～14日(木)

文化会館たづくり11階

みんなの広場



平和祈念事業

調布市は、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニアも
平和祈念事業へ参加しました。

黙とうの呼びかけ

8月6日（広島原爆の日）、9日（長崎原爆の日）、15日（終戦記念日）、3月10日（東京都平和の日）に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。

令和5年度はピースメッセンジャー2023が黙とうの呼びかけを行いました。

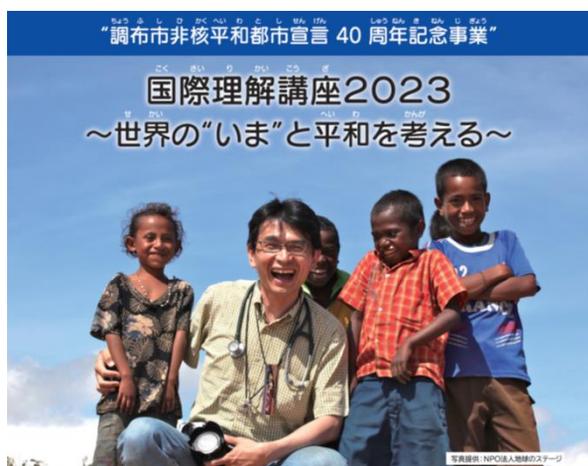


国際理解講座2023 ～世界の“いま”と平和を考える～

日時：令和5年12月9日（土）午後1時～4時
場所：グリーンホール 大ホール
主催：調布市，調布市国際交流協会
協力：NPO法人地球のステージ，FC東京，
(株)渋谷不動産エージェンツ，
(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団

調布市非核平和都市宣言40周年記念事業。

世界に目を向け、平和について改めて考える機会として、ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニアによる活動報告、ウクライナ出身の留学生によるウクライナの文化、料理、音楽や簡単な会話などの講話、NPO法人地球のステージによる世界で出会った人々の明るくたくましく生きる姿を映像と音楽、語りによって伝えるコンサートを実施しました。



世界に目を向け、平和について考えてみませんか？

日時 2023年 **12月9日** (土曜日)
※午後1時～午後4時(開場 午後0時30分)

場所 調布市グリーンホール 大ホール

内容 ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア活動報告
・ウクライナ出身の留学生にきく「ウクライナのこと」
・地球のステージ

特典 12月5日(火曜日)までに申込をいただいた方の中から抽選でFC東京の選手のサイン入りグッズや地球のステージのグッズなどが当たります!!

入場無料

QRコード

この事業は国際交流平和基金を活用しています
【問い合わせ】調布市生活文化スポーツ部文化生涯学習課 電話 042-481-7139



第 3 部

ピースメッセンジャー ジュニアの取組

FC東京との連携により市内在住又は
在学の小学生をピースメッセンジャージュ
ニアとして大阪・広島へ派遣しました。

ちょうふピースメッセンジャージュニア2023

紹介

市内在住又は在学の小学生9人が“ちょうふピースメッセンジャージュニア2023”として活動しました。



岩崎 理香	(いわさき りか)	調布市立上ノ原小学校 (5年)
笠嶋 稜夏	(かさじま りょうか)	調布市立布田小学校 (5年)
齋藤 瑠音	(さいとう るね)	調布市立滝坂小学校 (5年)
里見 駿成	(さとみ しゅんせい)	調布市立国領小学校 (5年)
渋谷 優作	(しぶや ゆうさく)	成蹊小学校 (6年)
立入暖清	(たちいり はるせ)	調布市立石原小学校 (6年)
長谷健生	(はせ けんせい)	調布市立深大寺小学校 (6年)
林莉央人	(はやし りおと)	調布市立杉森小学校 (6年)
松本悠生	(まつもと ゆうき)	調布市立上ノ原小学校 (5年)

本事業は調布市・FC東京・(株)渋谷不動産エージェントの連携により実施しました。

ピースメッセンジャージュニアの活動

8月6日(日)に実施されたFC東京VSセレッソ大阪の試合にあわせて、8月6日(日)~7日(月)に市内の小学生9人を“ピースメッセンジャージュニア”として派遣し、試合観戦と戦争・平和に関する学習を行いました。

任命式



「ちょうふピースメッセンジャー2023」と合同で任命式を実施し、FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏様から任命書が交付されました。

大阪・広島派遣1日目



8月6日(日)市役所前庭の「平和の塔」の前で黙とうを捧げ、大阪へ出発しました。



ピースおおさか 大阪国際平和センターを見学した後、セレッソ大阪のサポーターと戦争体験者の講話を聴講しました。



セレッソ大阪にご協力いただき、試合開始前の選手のウォーミングアップを見学させていただきました。FC東京VSセレッソ大阪の試合は見事FC東京が勝利を収めました。

大阪・広島派遣2日目



2日目は広島へ移動し、平和記念公園や平和記念資料館を見学しました。また、平和への想いを込めた折り鶴を平和記念公園に献納しました。

事後学習会



これまで学んできたことを踏まえ、感じたことや平和への想いをメッセージボードに記入しました。その後、ピースメッセンジャーと交流し、お互いの派遣について報告しました。

FC東京第3回青赤ストリートでの活動



FC東京vsサンフレッチェ広島の試合にあわせて開催されたイベント「青赤ストリート」の会場内で活動報告や来場者との交流を行いました。

ピースメッセンジャー・ピースメッセンジャージュニア合同報告会



グリーンホール大ホールで行われた「国際理解講座2023～世界の“いま”と平和を考える～」にて、ピースメッセンジャーと共に活動報告をしました。ホワイエではメッセージボードを展示し、休憩時間や終演後には来場者との交流も行いました。

ピースメッセンジャージュニアの

感想文

ピースメッセンジャージュニア一人ひとり
の「感想文」と平和への想いをまとめた
「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャージュニアが作成した原文のまま掲載しています。

“原爆”が落ちた

広島へ

〈自分が感じたこと・学んだこと〉

私は原爆ドームや資料館で戦争の
ひさんさを学びました。そして二度
と戦争をおこしてはならない、という
気持ちになりました。なので、平和と
はなんなのかな、ということも普段から
意識しながら生活していきたいで
す。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと



私は戦争体験者の方のお話を聞いておどろきました。なぜなら戦争がはじまる一日前までは、みんないつも通りの生活をしていたからです。戦争がはじまると、今までの生活が送れなくなると思うととても不安です。

原爆ドームや資料館などは、外国の方々がたくさん来ていました。資料館では、ボロボロになった衣服や小さな建造物があり、とくに心に残っているのは、黒い雨とかげです。黒い雨は原爆の放射線をふくんでいるため、口に入れてはいけません。ですが、のどが渇いて黒い雨をのんでしまった人はたおれてしまったそうです。かげは主に小さな建造物にあり、人がすわっていたかげのようなあとがありました。

今後私は、「平和」のことをさらに調べて、分かったことを他の人にわかりやすく伝えていきたいと思います。

調布市立上ノ原小学校（5年）
岩崎 理香



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

「広島・大阪派遣で思ったこと」

僕は、広島・大阪に行って、戦争の悲惨さを感じた。

「こんなに暑い日に、爆弾を落とされ、一面焼け野原に…苦しいな…」到着して最初に思った。忘れられないのは原爆ドームの姿。残ったのは柱や鉄骨のみ。吹き飛んだ柱を利用したベンチがあり、爆発の壮絶さを感じた。そこにいつもの生活をする人々がいて、被害にあった様子を想像すると、残酷さに胸が痛み、僕の心は大きく揺れた。

ピース大阪で、当時の少年の暮らしを知った。学校・会社に行けず、困窮した生活で彼らは疎開していた。親と離れ、空腹に労働の疲れ、敵襲で身も心も休まることのない日々どんな幸せを感じられたのか。大好きなサッカー観戦や旅の楽しさの中にいた僕には、その生活はより辛く過酷に感じた。

戦争と平和に深く向き合った二日間。戦争をするのは人間だから、自分がどんな人になるのかが大切に思えた。身近な友達と衝突した時には、意見が異なっても諦めずに対話をして相手を理解するよう努めたい。戦争はスケールの大きな問題で、僕にできることは少ない。でも互いに思いやり、正しい判断ができる人が多くいて、もし僕だったら…と考えることができれば、きっと平和に繋がっていく。

Chofu Peace Messenger

令和5年度 調布市平和祈念事業

ちょうぶ
ピースメッセンジャージュニア2023
大阪・広島



<広島に行き、感じた事>

初めて広島に行き、原爆のことについて考えました。平和記念公園では、戦争体験者の話を聞き改めて「原爆はおそろしい」と思いました。私は戦争がなくなるようにこの絵を書きました。これからも戦争のことについて考えたいです。

大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

調布市 Chofu City

EC TOKYO

渋谷不動産エージェンツ

「ピースメッセンジャーの体験談」

私は広島県にピースメッセンジャーとして行き、普段では経験することができない貴重な体験ができたことが良かったと思いました。

そう感じた理由は2つあります。

1つ目は平和記念公園に行き原爆ドームを見れたことです。私自身、初めての広島だったので原爆ドームの迫力に驚きました。また、ガイドさんの話を聞きながら行動して原爆ドームの知らないところも知れました。

2つ目はサッカー観戦をしたことです。スタジアムでは同じピースメッセンジャーとして行動していた子と仲良くなることもできました。点が入った時に石川さんや友達と喜んだことも印象に残っています。

私はこの活動を通して改めて平和であることがいかに素晴らしいか感じる事ができました。

今、自分が置かれている状況が当たり前ではない時代があったということを知り毎日大切に生きていこうと思いました。

調布市立滝坂小学校（5年）

齋藤 瑠音



令和5年度 調布市平和祈念事業

ちようぶ

ピースメッセンジャージュニア2023

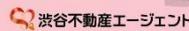
大阪・広島

〈自分が学んだこと〉

原爆によりたくさんの罪の
無い人の大切なものが失
れました。何万人もの人々
が命を落として白血病
になりました。病気はも
たなくてもいつ病気にな
るかわからない不安で安
心してくれなかった人も
います。戦争は人々から色
々なものをうばうというこ
を様々な人に伝えていま
たいです。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと



「ピースメッセンジャーに参加して」

ぼくが、ピースメッセンジャーに参加したきっかけは、平和と戦争について学ぶことが、将来役に立つと思ったからです。

特に印象に残ったのは、広島平和記念資料館で見た「生きる」という展示でした。まず、ぼくと同じくらいの年の子も被災したことを知りました。「将来やりたいことや、なりたいものがたくさんあったらうに。」と思うと、戦争を二度としてはならないと思いました。次に、助からないと判断された人は、入院さえことわられてしまったことも知りました。みんなが助かれば一番良いけれど、戦争中はそんなに甘い状況ではないこともわかり、悲しい気持ちになりました。

最後に、戦争をすると、家族や友達など大切なものを色々な人からうばうものだと思い、戦争をなくす方法をしっかり勉強して、考えていきたいです。

調布市立国領小学校（5年）
里見 駿成

ヒロシマへ行って

戦争をして何を得るでしょう。
戦争の勝ち負けよりもっと尊く守る
べきものがあるのではないでしょうが、
だれもが思う平和とはどれほど尊い
ものが考えてほしい。そして、より多くの人に
知ってほしい。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと



ぼくはここ2年間でヒロシマについてたくさん知ることができました。ここ2年と言いましたが、去年もぼくはヒロシマへ行きました。しかし、今年は大阪にも行き、当時の人のお話を聞いてよりくわしく学ぶことができました。

平和記念公園で最も印象に残ったのが原爆ドームです。ポロボロになった柱、骨だけが残った屋根。テレビで見るよりも迫力があり、見ただけで戦争の悲惨さ、残酷さが伝わってきました。平和記念資料館では当時の様子を描いた絵を見て恐怖を覚えました。当時は大切な家族も友人もみんなケガをして、自分もいつ死ぬかわからない。そう考えると、とても怖くなりました。

戦争をして何を得るのでしょうか。戦争の勝ち負けよりもっと尊く守るべきものがあるのではないのでしょうか。

平和とはどれだけ尊いものか考えてほしい。そしてより多くの人たちに知ってほしい。

成蹊小学校（6年）
渋谷 優作

〈広島に行つて学んだ事〉

広島に行つて印象に残つたのは原爆ドームを見れた事です。テレビでしか見た事が無かったので生で見れて改めて戦争の怖さを知りました。原爆ドームは、元々広島県産業しょうれい館という名前です。僕は、ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは、とても強そうですね。すごいと思います。心の中で感動しました。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

「戦争を知らない僕が感じた事」

今回、広島に行つて印象に残つたのは原爆ドームを見れた事です。テレビでしか見た事が無かったので生で見れて改めて戦争の怖さを知りました。原爆ドームは、元々広島県産業しょうれい館という名前です。僕は、ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは、とても強そうですね。すごいと思います。心の中で感動しました。

また、ドイツ人留学生の戦争の話を聞いて昔ドイツで戦争を起こしていたナチス軍が強制労働収容所で大量ぎやく殺を行い数百万人が亡くなったと聞き、とても悲しくなりました。日本も戦争で多くの方がぎせいになりましたが、世界の国のどこかで悲しい思いをしてる人が多くいるんだと知りました。今もロシアとウクライナで戦争が起きています。もうこんな事が起きない様に全世界が平和になるといいと思います。

調布市立石原小学校（6年）
立入 暖清

広島・大阪で
学んだこと

広島に原爆が落されたこと
です。
原爆には放射線は全ての物
に悪影響をあたえます。

大阪は大空音^どがあり、
大阪の町が^く焼け原^{はら}
になりとても大変な状況に
なりました。

大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

「戦争はおそろしい」

2023年8月6日～8月7日に昨年行けなかった、ピースメッセンジャージュニアに参加しました。

ぼくが広島にいった学んだことは戦争のことです。

広島には原爆（原子ばくだん）が落とされました。

原ばくの投下は、1945年8月6日の朝のことです。広島の上にアメリカ軍の飛行機が現れ、9600メートルほどの高さから、原ばくを投下しました。ばくだんは、地上600メートルの上空でばく発し、町を一しゅんではかいました。

次に、原ばくの被害、熱線被害についてです。ばく心地から3.5キロメートル以内にいた人は、熱線を受けた部分の皮ふのやけどをしました。

また、後遺障害というものがあります。何年もたってから血液のがんである白血病やいろいろながんなど引き起こすことです。被ばくした人の中には一度だけではなくさまざまながんは何度も苦しめられる人もいます。

ぼくが広島に行って学んだことは、戦争のおそろしさです。戦争が起きたらとても大変だなと思いました。もう二度と戦争をしないでほしいと思います。

〈自分が感じたこと〉

大阪や広島に行って思った
ことは、戦争は全てをこわし
てしまうおそろしい予物2度と
おこしちゃいけないことだと
思いました。たくさんの方がま
しめたごんごんの方が死んで
本当に大変だったと思う。
原爆ドームに行ってあんまり
きれいな中切が1つの原爆
でクチャクチャになるという
ことは、やっぱりあつては
ならない中切だと思いま
した。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

「ピースメッセンジャーの活動を通して」

行ってよかった。ぼくが2日間の活動を終えて思った率直な感想はこれでした。1日目の午前中はきんちょうしてほかのメンバーと全然はなせなかったけど少しずつきんちょうがほぐれていって楽しめた。

ピース大阪国際平和センターでは、戦争の時の様子がわかり「即死した母」などのざんこくな絵がたくさんあって苦しい気持ちになった。

ヨドコウ桜スタジアムでは、選手とのきよりが近くてドキドキした。見事試合には勝てて本当にうれしかった。

2日目は朝からしんかんせんにのって初めて広島まで行って平和について学んだ。

平和記念公園でガイドさんについていって、公園内をあんないしてもらった。人のはねや死んだ姿の写真がすごくざんこくだった。

ぼくは1人でも多くの人に戦争のこわさをしてもらい2度と起こらないように願いたい。

〈広島と大阪訪れて〉
昔広島と長崎に原爆が
落されました。
大阪では、大阪大空襲
があり、大阪は焼け野
原になりました。

〈思ったこと・感じたこと〉
大阪では防空壕に
入る体験し、せまい
ななと思いました。
広島では、原爆の恐
ろしさを知り、原
爆は落としてはい
けない物だと思
いました。



大阪・広島で感じたこと、伝えたいこと

「平和学習を終えて」

ぼくは、平和について学ぶため大阪と広島に行ってきました。

ピース大阪国際平和センターでは、防空壕に入る体験をしました。防空壕の中はせまく10人程度が入れますが実際に入ってみたら、ぎゅうぎゅうで苦しかったです。また、戦時下の家は照明に黒色の布をかけて人がいるのがばれないようにしていたそうです。部屋が暗いので、こわかったと思います。

広島平和記念資料館では、焼け残った三輪車が置いてありました。この三輪車はぼく心地から1500mもはなれていたのにも関わらずこげてしまっていました。それほど原爆は、い力が強くたくさんの人の命をうばう危険な物だと分かりました。

ぼくは、かく兵きを使用してはいけないと思うし、戦争もやってはいけないと感じました。世界が平和になるといいなと思います。

第4部

自主活動

ピースメッセンジャーやピースメッセンジャー
ジュニアは、学校や個人の活動としても積極的に【発信】しています。

【ピースメッセンジャー2023】

池田晃樹・川上慶一郎・福永絢

安藤笑太郎

【ピースメッセンジャージュニア2023】

里見駿成

ピースメッセンジャー2023

池田晃樹・川上慶一郎・福永絢

第六中学校の3人が共同でピースメッセンジャーの活動についての壁新聞を作成し、校内に掲示しました。

ピースメッセンジャーの活動を通して

1-3 福永 絢
2-2 池田 晃樹
2-3 川上 慶一郎

1日目 被ばく者 迫田 勲 さんの講話



「戦争は過去の事ではなく、『今』も起こりうる。」
 迫田 勲 さんは、爆心地から北西19kmの場所で被爆しました。母を晩年ガンで亡くし、自身も現在に至るまで数十年甲状腺の病気に悩まされています。85歳まで数十年前甲状腺の病気に悩まされています。爆心地から1.5km外郭付近を被爆するということは何十年にもわたり体に影響を及ぼすものだと思います。講話の中の迫田さんの言葉には今の平和な生活を守り続けていかなければならないという思いが感じられました。



広島赤十字
原爆病院
窓枠
8月6日その時!
爆心地から1.5km外郭付近を残して破壊された。地下室のレインガスマムが全て感光したことにより原子爆弾であると立証された。
高光?→放射線量計によって色が変わる

原爆資料館

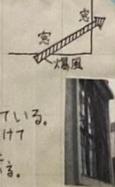
- ・1つの原爆だけでこんな大きな被害が出ることを知った。
- ・原爆はやめてはいけないと思った。
- ・爆心地から数km離れた場所でも被爆していた。
- ・人々に大きな原子爆弾が日本に落とされた。
- ・写真では見れもさうな姿の人ばかりだった。
- ・少し目をそらしたくなるようなものがあった。
- ・鉄や食器が壊れてしまっているものも多かった。
- ・爆風による熱がすごいものだったということが感じられた。

広島市内の大学生との交流

- ・広島市内で平和について活動している「カクワカ広島」の方々と交流をした。
- ・「カクワカ広島」とは核政策を知りたい広島若者有権者の会のこと
- ・このような若者が平和について活動している人がいることに驚いた。
- ・僕たちのような若者が平和について伝えていかないといけないと思った。

赤十字病院

被爆後、数少ない焼け残った建物の一つ。一部が広島市内に展示されている。上の図のように、爆風が抜けていたの、一方の窓は内側に、もう一方は外側に壊れている。



被爆直後は7人の人が運ばれ、救護所として使用された。

袋町小学校

当時木造校舎と鉄筋コンクリートでできた校舎の2つがあり、崩壊して焼け残った鉄筋コンクリートの校舎を資料館として使用している。

凄惨な壁を壊したところ、当時の人々の文字が出たところ、77%は家族の安否を確認するもので、自分も00にいます、というもの。



呉市

昔から海軍の町として栄え、現在も港町として栄えている。

戦艦下では空襲で壊れること87%、大きな被害が出た。

映画「この世界の片隅に」のロケ地でもある。



ピースメッセンジャーの活動を通して

三日間、言葉では表せないほどの貴重な体験をしました。この体験をもっとたくさんの人に伝えていきたいです。

1年3組 福永 絢

感想

このピースメッセンジャーの活動を通して平和の大切さを改めて認識し、戦争や核兵器の恐ろしさを知りました。また、被爆者の方々が高齢化する中で、僕たちのような若い世代の人たちが平和や戦争の恐ろしさを知り伝えていきたいと思いました。 2-2 池田晃樹

感想 2-3 川上 慶一郎

原爆によって焼け残った建物は、当時のようすがリアルに伝わってきて、少し怖かった。

広島は、原爆のことには目撃いさかちだけ、他にも被害を受けた所があり、その苦しみについて、

ピースメッセンジャー2023

安藤笑太郎

広島派遣後、新聞記事の中から興味や関心のあるニュースを見つけて作文にする、朝日学生新聞社主催「第11回ニュース作文コンクール」に応募し、佳作に選ばれました。

「広島を訪ねて僕が学んだこと」

安藤笑太郎

僕は、七月末日から八月二日迄、街が運営する平和派遣事業企画に参加し、広島を訪ねた。

そこでは、平和記念資料館の見学、爆心地近くでVRゴーグルを使った映像で、原爆投下直後の街や人々の様子～復興した現在迄を自分もその場にいる様な疑似体験をしたり、被爆された方の話を聞く等、衝撃の三日間を過ごした。それらは僕の十三年間の人生で想像できない事ばかりで思考が止まった。

帰宅して数日後の八月六日、広島原爆投下の新聞記事が目にとまり、思わず手に取って読みながら広島での体験が頭によみ返った。

僕は、もう少し原爆に関する事が知りたくなりネットで検索してみた。その中で知った一つに、僕は、日本は原爆の被害者だと思っていたが世界はそうは思わない人もいる事だ。

例えば米国では、原爆投下が終戦に繋がり多くの兵士の命を救ったと考えて肯定する人が大多数の意見だ。でも、最近は原爆投下は不要だったと考える人も増えてきている事も知り、それはきっと、広島や長崎で被爆した方々を中心に日本が原爆の恐ろしさを世界に発信し続けている成果だと思う。

今、世界は自分と対立する意見を持つ人に攻撃する傾向が強まっていると新聞に書かれていた。「自分は絶対に悪くない」と正当化し、解決方法を冷静に考える事が出来なくなって戦争に発展していくのだと思う。僕は広島で過ごした三日間、特に映像で見た原爆投下直後の様子を忘れる事ができません。ネットで検索した中に、日本は被害者ではなく加害者だという内容のものもあった。でも、日本が発信している原爆の恐ろしさや戦争がダメというのは、加害者や被害者の立場に関係なく、争いは悲しみしか生まず、核兵器の恐ろしさを伝えている事だと思う。

これらを通して、僕は自分と対立する相手と対話でお互いを理解する事の大切さを学んだ。そして、日本人として原爆の恐ろしさを正しく発信できるように理解しようと思う。

ピースメッセンジャージュニア2023

里見駿成



国領小学校5年の里見駿成さんが全校朝会の場で、派遣を通して学んだことや、平和の大切さについて全校生徒に向けてスピーチしました。

第5部

資料

ピースメッセンジャーの取組以外にも
市は平和に向けた様々な取組を行って
います。

また、調布市の姉妹都市である長野
県木島平村の広島平和派遣について
も紹介します。

ちょうふピース部

ちょうふピース部とは

これまでに任命されたピースメッセンジャーたちが、派遣された年度以降も継続的に活動ができるよう、令和5年度に「ちょうふピース部」を立ち上げ、活動が始まりました。

令和6年3月現在、中学生～高校生の約20人が活動をしています。

令和5年度は、ピースメッセンジャー2023の学習会のサポートや交流、市が毎年発行している平和祈念情報誌「ピース・レターちょうふ」の特別版の作成などを行いました。



このロゴは「平和」や「愛」、「心」、「活動」をイメージしてメンバーが作成したオリジナルのロゴです。



ちょうふピース部の活動について詳細は市HP→



ピースメッセンジャー・ ちようふピース部交流会

日時：令和6年3月20日（水・祝）午前10時～11時30分
場所：教育会館301研修室

ピースメッセンジャー2023とちようふピース部の交流会を実施しました。

ピースメッセンジャーからは一年間活動してきた内容の報告を、ちようふピース部からは自分たちで作成した「ピース・レターちようふ」特別版などピース部の活動を紹介しました。

その後、レクリエーションゲームなどを通して仲を深めました。



調布市平和展

戦争による被害の実相や次代を担う子どもたちの平和への想いなど、様々な角度から戦争・平和について学び、考える機会とするため「調布市平和展」を開催しています。

令和5年度は、8月22日(火)～27日(日)に文化会館たづくり北ギャラリーで開催しました。

長崎市からお借りした被爆資料をはじめ、NPO法人地球のステージから借用した世界の紛争地のパネル、子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2022受賞作品などの様々な戦争・平和に関する展示を実施しました。

また、調布市原爆被害者の会の協力により、開催期間中に会場内にて被爆体験者講話を実施しました。



折り鶴プロジェクト

市は「折り鶴プロジェクト」として、市民の皆さんが平和への想いを込めて折った折り鶴を被爆地に献納する取組を行っています。

令和5年度は、市内の中学生にご協力いただき、合計で約7,380羽の折り鶴が集まりました。

集まった折り鶴は、ちょうふピースメッセンジャー2023とちょうふピースメッセンジャージュニア2023が広島へ献納しました。たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。



ピースメッセンジャー2023



ピースメッセンジャー
ジュニア2023

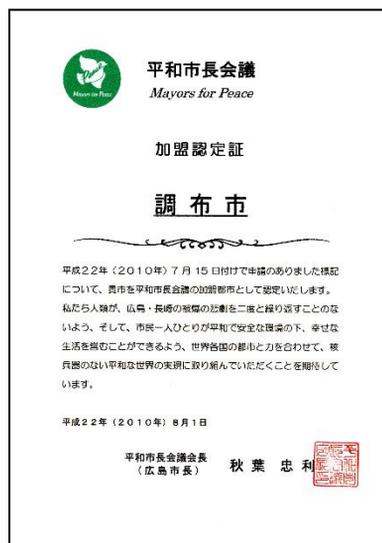
●これまでご協力いただいた折り鶴の数●

令和4年度	約10,160羽(市内中学校で実施)
令和3年度	約18,500羽(市内中学校で実施)
令和2年度	約7,900羽(市内中学校で実施)
令和元年度	約22,080羽(市内公共施設, 中学校, 平和イベント等で実施) 広島市へ献納
平成30年度	1,725羽(原爆展内で実施) 過年度分と合わせて長崎市へ献納
平成29年度	385羽(原爆展内で実施) 過年度分と合わせて広島市へ献納
平成28年度	535羽(平和展内で実施)
平成27年度	47,518羽(平和祈念事業内で実施) 広島市へ献納

へいわしゅちょうかいぎ 平和首長会議

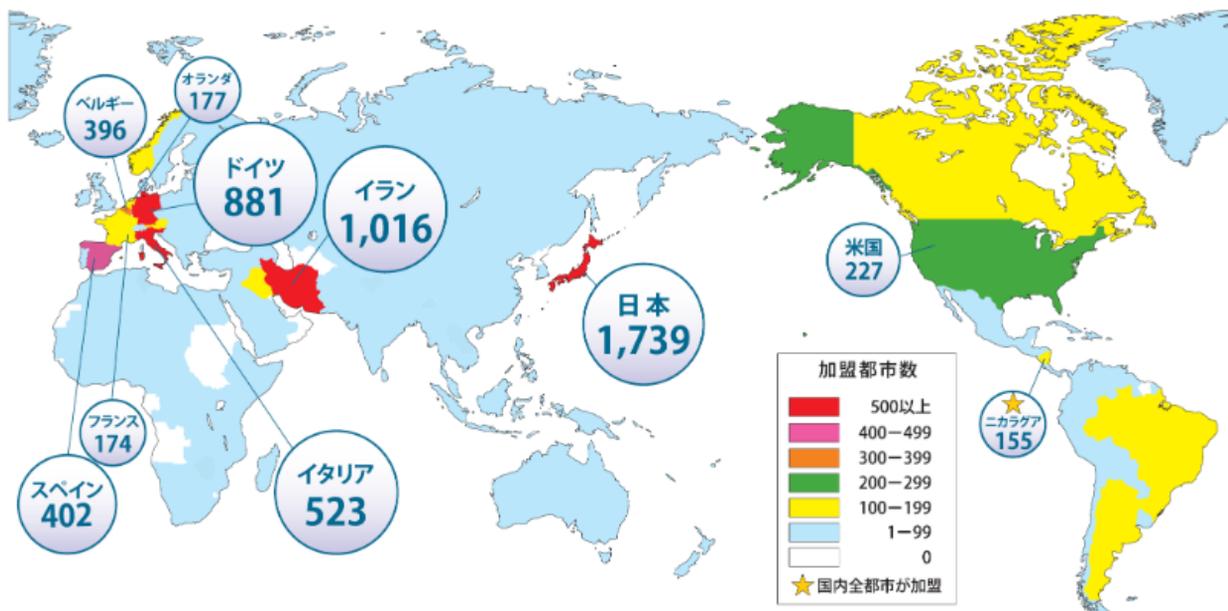
平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議」(平成25年8月6日付けて「平和首長会議」に名称変更)に加盟しました。



加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



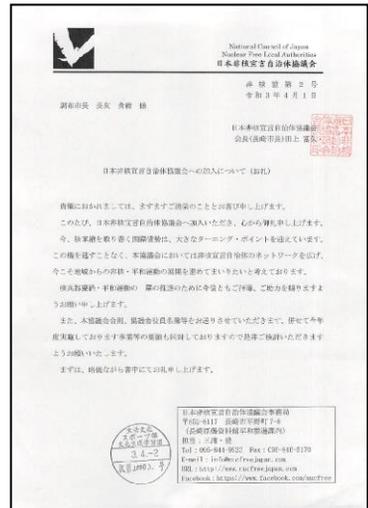
2024年3月1日現在

加盟都市数(令和6年3月1日現在)
166か国・地域 8,374都市 うち国内加盟都市数1,739都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい 日本非核宣言自治体協議会

日本非核宣言自治体協議会は、「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」という趣旨の下、1984年に広島県府中町で設立されました。

令和3年4月1日、調布市は「日本非核宣言自治体協議会」に加入しました。



加入お礼状

	都道府県	市	特別区	町	村	合計
会員自治体数	1	201	7	125	22	356
自治体総数	47	792	23	743	183	1,788

令和5年10月時点

《非核宣言自治体とは》

平和を希求し、核兵器廃絶や非核三原則の遵守などを求める内容の自治体宣言や議会決議を行った自治体のこと。

1980年に英国のマンチェスター市が行った「マンチェスター市非核都市宣言」が、非核宣言運動を世界に広める契機となった。マンチェスター市が自らのまちを非核兵器地帯であると宣言し、他の自治体にも同様の宣言をするよう求めると、これに英国内の多くの自治体が賛同し、やがて宣言運動は世界に広がった。

日本でも非核宣言を行う自治体が増え、現在では1,650を超える自治体が宣言を行っている。

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布では、昭和58年9月27日に市議会が「調布市非核平和都市宣言」を、平成2年3月23日に市が「調布市国際交流平和都市宣言」をしています。

これらを踏まえ、市は、世界平和に向けて様々な平和祈念事業に取り組んでいます。

市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。

また、調布市グリーンホール壁面に掲示した平和都市宣言パネルは、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」を記念して、令和2年3月にリニューアルしたものです。

どちらも外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。



市役所前庭のパネル



調布市グリーンホール壁面のパネル

調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

市が加盟している平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図るため、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを平成30年度から実施しています。

6回目となる令和5年度は、世界19か国115都市から、4,766作品(6歳～10歳の部:2,536作品,11歳～15歳の部:2,230作品)の応募がありました。

市でも独自で賞を設け、市への応募作品23作品の中から受賞作品を選定しました。

全応募作品を令和6年3月7日(木)～14日(木)に文化会館たづくり1階エントランスにて開催した「調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2023作品展」にて展示しました。また、3月10日(日)には、市独自の賞を受賞した受賞者を対象に授賞式を実施しました。



11歳～15歳の部
調布市長賞 平木 亮伍さん



作品展の様子



授賞式の様子

その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちょうふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちょうふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配付するとともに、公共施設に配架しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。



基金の原資は、市の予算による積立や、皆様からお寄せいただいた寄付金などです。平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちょうふ」の作成、「平和派遣事業」などがあります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。

【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139

調布市国際交流平和基金のHPはこちら



姉妹都市長野県木島平村 平和学習～中学生広島派遣～

調布市の姉妹都市である長野県木島平村でも、平和学習として、中学生の広島派遣事業を行っています。

今年度は、8月3日(木)～5日(土)に、木島平村立木島平中学校の3人と野沢温泉村立野沢温泉中学校の2人が参加し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて学びました。

広島平和記念公園



折り鶴の献納



広島平和記念資料館の見学



中学生広島派遣に参加した木島平村立木島平中学校の生徒3人の作文をご紹介します。

広島平和学習に参加して

2年1組 宮島 左内

ぼくは、広島平和学習のため広島へ行ってきました。

ぼくは、今回広島平和学習に参加するにあたって、次のような目標をたてて臨みました。「自分の目で広島に起きた本当の事を見てくる」このことを、心の中において、三日間すごしました。

二日目に広島平和記念公園に行きました。そこで、現地のガイドの方と出会いました。一緒に原爆ドームを見ました。ぼくは原爆ドームを見た瞬間、ポロポロになっている建物から原子爆弾の破壊力のおそろしさを感じました。ガイドの方の話から爆発ではなく、爆風で物が溶けたり、壊れたりしたことを知りました。実際、爆発した場所は、原爆ドームから南東約百六十メートルはなれた病院の上空約六百メートルの位置で爆発しました。その方向を見つめた時にぼくの目の前には、きれいな青空が広がっていました。八十年近く前のこの空は、当時の人にとっては、どんな風にうつっていたのか悲しい気持ちになりました。

事前学習で一番時間をかけて学んだ平和の子の像の所へ行きました。佐々木禎子さんやその同級生たちの歩みを、ガイドの方と一緒にたくさん話をしました。全校のみんなで作った千羽鶴を捧げました。平和の子の像の下でみんなでおいのりをしました。ぼくは、「天国でも元気に暮らしてください」と心の中で言いました。

次に、平和資料館に行きました。そこには、ぼくがこの平和学習で一番大切にしていた広島に起きた本当の事であふれていました。焼けこげた服、真っ黒になって溶けた三輪車、やけどを負った人たちの写真、言葉にすることがこわくなるような写真もたくさんありました。見ていると、多くの人の命やその後の人生をうばってしまう物が原子爆弾であったのだと思いました。

この三日間を通して、平和の大切さを強く感じました。それと、戦争は大小関係なく絶対にしてはいけないとも強く感じました。

あたりまえだと思っていた家族や友達、先生との木島平での日々の生活が、どれほどしあわせな物かということを感じました。このぼくにとってのしあわせを守り続けたいです。

私は8月3～5日の3日間広島で平和について学んできました。3日間平和について学んでいく上で私達が今を安心して過ごせることがあり得ない程の奇跡なのだと教えてもらいました。今もこの世のどこかで死にたくなる程の苦しみを味わう人がいます。でも私はここにいたいと思う。それがどれ程贅沢なことかを知り怖くなりました。

平和記念公園からガイドさんに案内してもらい私は沢山のことを学びました。最初に原爆ドームを見ました。見ていると落ちていた瓦礫の量となくなってしまった建物の量が合わない気がしました。先生に聞くと原爆の高温で溶けてしまったものもあると言っていました。溶ける。あまりよく分かりませんでした。建物だけではなく人や植物も溶けたからです。また原爆ドームはなぜ今も残っているのかガイドさんが教えてくれました。原爆は当時広島県物産陳列館のすぐ近くにある病院に落ちました。なので爆風は上から降りかかってきて形が残りました。その後建物を残したくないという意見も多くあったそうです。被爆当時のことを思い出して辛くなってしまっているからです。ですが今その建物は原爆ドームとして残っています。私たちは当時のことを知らないのを知るとして残してくれた人に感謝しています。他にも爆風で飛んだ石、ターゲットとなった橋、被爆した建物なども見えました。そして全校のみんなで作った千羽鶴を置いてきました。そこには私たちの千羽鶴を置いてきました。そこには私たちの千羽鶴以外にもいろんな願いが込められた鶴がありました。そして平和の鐘をみんなで鳴らしました。平和の鐘には世界地図がありますが国境がありません。世界みんなが仲間であり傷つけあうことがないという願いが込められているからです。平和の灯は世界から核がなくなると共に息絶えます。私はいつか近い将来実現するといいなって思います。

平和記念公園を視察した後広島平和記念資料館に行きました。私は人が溶けるってというのが想像出来ませんでした。けど入った途端目に飛び込んできたのは皮膚が爛れ苦しんでいる人、崩壊した町、水を求めて亡くなっていく人の絵など。その光景を撮った人はやっとの思いで最初のシャッターを切ったそうです。亡くなった方が身につけていたものや最期の言葉、魂の叫びなども展示してありました。また資料館では当時の状況を知ることができました。戦争中だった当時、木の建物から起きる火災を防ぐため建物疎開が行われていました。建物疎開を行っていたのは私たちと同じ中学生や高校生です。被害を減らすために行っていたことが被害を大きくする結果となってしまいました。資料館を出た後たくさんの方がいつもの日常を過ごしていたところに何の前触れもなく原爆が落とされたと考えたら怖くなって何も言えなくなりました。故郷じゃないところから来ていた人は会いたい人がいても伝えたいことがあっても伝えられずに亡くなっていたのかもって考えてしまいました。遺族が見つからない人はずっと待っているのに願うことしかできない自分が無力に思えてきました。

生物が生まれながらにして平等に持っているものは時間と命だと思います。そのどちらも奪うのが戦争だと思います。私のこの身にいつも通り明日が来る保証はありません。なのでみんなが笑って今を生きる、この身に明日が訪れてほしいと思えるそんな世界になることを願っています。

広島平和学習では、たくさんのことを学んできました。生きていく中で知らないといけないことだなと感じ、悲惨な現実を目を背けず広島で心や体で学びました。

事前学習では、学校で動画を見たり、資料を読みました。自分でも、インターネットで調べ、たくさん資料を読みました。想像をしていたよりもずっと原爆が怖いものだと知り、実際に広島に行ってその事実を受け止められるかすごく不安になりました。代表で見てくるんだという気持ちで、3日間広島で学んできました。

2日目に、平和記念公園を視察しました。ガイドさんに説明をしてもらいながら見ました。資料で学んだことも、実際にその場所に立ちながら、ガイドさんの声で説明してもらえると、より感じるものがありました。平和記念公園は、緑がたくさんあり、人もたくさんいて、すごく綺麗な公園でした。78年前に焼け野原になってしまったとは、とても想像ができませんでした。しかし、原爆ドームを見ると本当なんだということをより強く感じ心苦しくなりました。写真で見るよりもずっと恐怖を感じました。ガイドさんの話では、原爆ドームを残すか残さないかが問題になったと教えてくれました。それでも、今に残されることが決まり大切にされ世界遺産になっています。平和記念公園には他にも、慰霊碑や像がたくさんありました。被爆された方々を大切に思い、未来の人たちに原爆のことを伝えていこうという気持ちが伝わってきました。原爆の子の像には、たくさん千羽鶴があつてたくさんの方が平和を願っているということが感じられました。自分たちも全校で作った千羽鶴をかけてきました。これからも、続いてほしいと思いました。平和記念公園では原爆の知識を実際の場所で重ねながら知れて貴重な体験ができたなと思います。

広島平和記念資料館では、原爆への知識をたくさん心で学んできました。壁に被爆前の広島と被爆後の広島の写真が一面に展示してありました。実際にその場所に立っているみたいな感覚がしてすごく心に残っています。被爆された方の写真や絵がたくさん展示してありました。思わず目を背けてしまいました。ちゃんと見れないほどの今までに感じたことのない感情になりました。その中でも、幼い子の写真がすごく心に残っています。自分の妹や弟と重ねてみてしまってすごく胸が苦しくなりました。他にも、服や持ち物が展示してありました。ボロボロになって焼けている服が並べてあつて実際に人が着ていたことが想像できて改めて被爆の怖さを感じました。一番心に残っている展示物は、お弁当箱です。アルミのお弁当箱が中身が入ったまま黒焦げになってしまっていました。お母さんが遺体の下から見つけたそうです。その日、お弁当を楽しみに出かけましたが、それを食べることはできなかったそうです。お母さんの気持ちを考えると、すごく悲しい気持ちになりました。

私が、広島平和学習を通して感じたことは、原爆のことを忘れてはいけないということです。今、世界では核が推定1万発以上あるそうです。世界に核がある限り、二度と使われないとはいえません。なので、今の社会を生きる私たちが原爆の怖さを正しく知る必要があると思いました。一人でも多くの方が広島や長崎に行き、体や心で感じてきてほしいと思いました。私は広島で見たことを一生忘れないと思います。この平和学習に参加していなければこのような気持ちは感じられなかったと思うし、原爆のことを意識できなかったと思います。本当に参加して良かったと思っています。そして、自分が学んだことをたくさんの人に伝えたいと思います。

おわりに

「令和5年度調布市中学生被爆地平和派遣事業 ちょうふピースメッセンジャー2023 報告書」をご覧くださいありがとうございます。

実際に広島へ行き、ガイドの方に説明していただきながら自分の足で被爆遺構や資料館などを巡ったこと、現地で平和活動をする方々と意見を交わしたこと、被爆体験者の方から直接お話を伺ったことは、ピースメッセンジャーにとって貴重な経験になったことと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、活動を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

市は、戦争を知らない世代が増加していく中、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを着実に次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施して参ります。

令和6年3月

協力

- ・NPO法人ちょうふこどもネット
- ・FC 東京
- ・株式会社渋谷不動産エージェント
- ・核政策を知りたい広島若者有権者の会
(カクワカ広島)
- ・社会福祉法人楽山会

表紙について

原爆ドーム

原爆ドームは、第2次世界大戦末期に人類史上初めて使用された核兵器により、被爆した建物です。ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは、核兵器の惨禍を伝えるものであり、時代を超えて核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを訴え続ける人類共通の平和記念碑です。
(広島市 HP より)

参考資料

- ・平和首長会議ホームページ
- ・日本非核宣言自治体協議会ホームページ
- ・広島市ホームページ
- ・呉市観光ガイドブック「呉ブーム」

裏表紙について

「すずさん家」から見た呉市

「すずさん家(がた)」
この史代さんから寄付をいただいた、「この世界の片隅に」主人公のすずさんが暮らした家のモデルとなった場所。
「北條家」の間取りを、色違いのインターロッキングとコンクリートで再現し、この史代さんによりデザインを提供いただいた案内板や、書き下ろしデザインをあしらったスツール(椅子)が設置されています。
(呉市観光ガイドブック「呉ブーム」より)

刊行物番号
2023—237

令和5年度調布市中学生被爆地平和派遣事業
ちようふピースメッセンジャー2023 報告書

発行日:令和6年3月

発行:調布市

編集:生活文化スポーツ部文化生涯学習課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話:042-481-7139(直通)

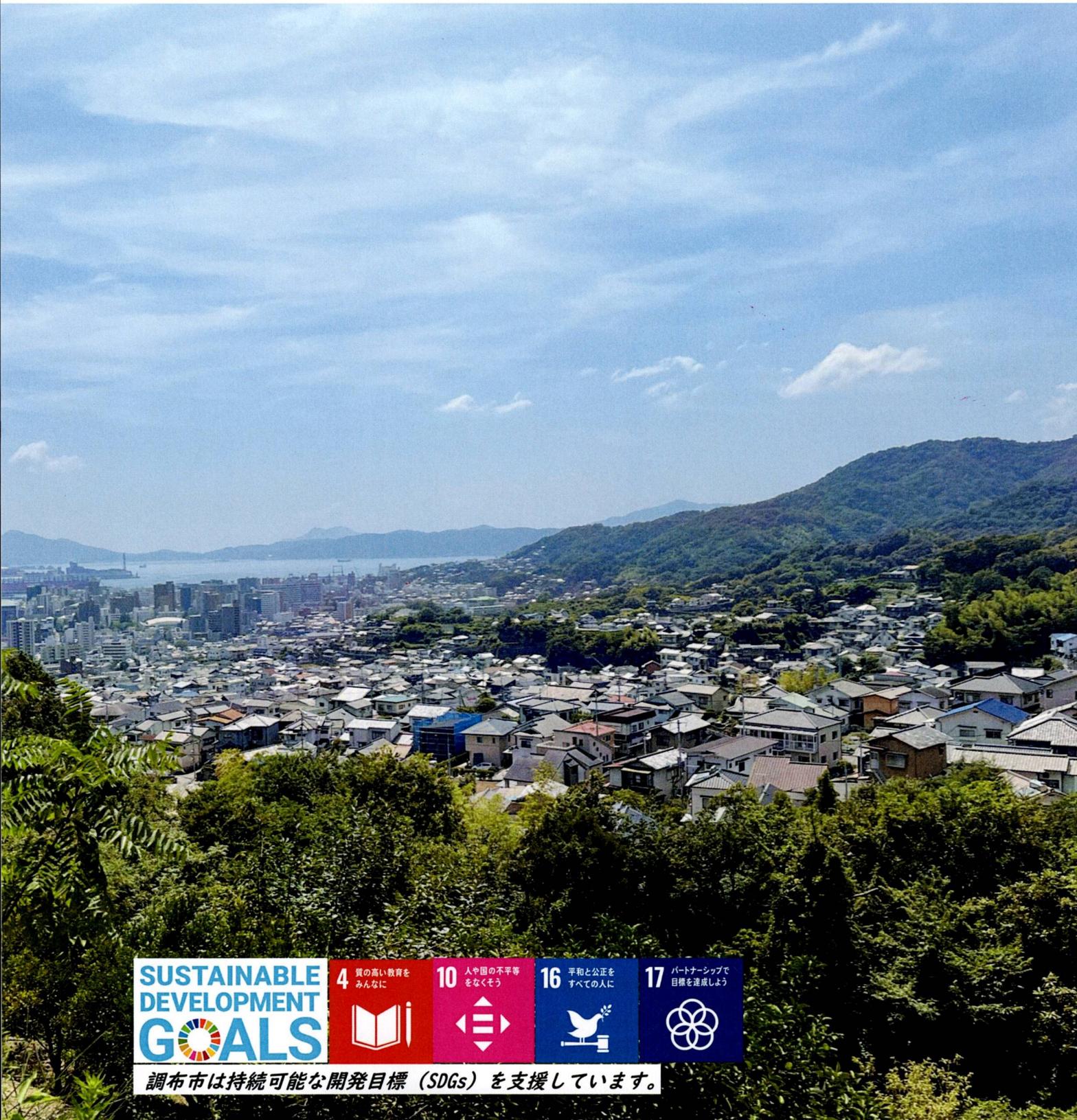
FAX:042-481-6881

E-mail:bunsin@city.chofu.lg.jp



ちょうふピースメッセンジャー 2023

次代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”として任命し、被爆地への派遣などを通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指します。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



調布市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。